



NEWS RELEASE

株式会社 すららネット
2026 年 7 月 14 日

言語の壁で学びを止めない 日本語指導が必要な児童生徒の約 7 割を占める主要言語に対応 ICT 教材「すらら にほんご」、14 言語対応へ拡充

AI を活用したアダプティブな対話式 ICT 教材の開発と提供を行う株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役：湯野川孝彦）は、2026 年 7 月 14 日より、日本語学習 ICT 教材「すらら にほんご」の対応言語を、従来の 3 言語から 14 言語へ拡充しました。

今回、新たにウズベク語、シンハラ語、スペイン語、タイ語、タガログ語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、ネパール語、ベトナム語、ベンガル語、ポルトガル語に対応しました。これにより、従来から対応している英語、インドネシア語、クメール語と合わせ、計 14 言語 20 か国以上の世界各国の多様なルーツを持つ学習者が利用できるようになりました。

対応言語拡大は、教育現場から寄せられていた多言語対応へのニーズを踏まえ、より多くの学習者が母語で内容を確認しながら日本語を学べる環境づくりを目的としています。

すらら  にほんご



日本e-Learning大賞
日本語教育特別部門賞受賞

日本語学習ニーズが拡大、求められる多様化する母語への対応

令和 7 年度の文部科学省の調査では、公立学校における日本語指導が必要な外国籍児童生徒は 73,313 人となり、前回調査から 15,595 人（27.0%）増加し、過去最多となりました。また、外国籍児童生徒 73,313 人のうち、中国語、ポルトガル語、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、スペイン語の 6 言語だけで約 5.4 万人、73.6%を占めています※。

こうした教育現場でのニーズに加え、外国人材の受け入れ拡大を背景に、日本語学習へのニーズは学校だけでなく、就労や留学など幅広い場面で高まっています。本教材の対応言語拡大により、多様な母語を持つ学習者が、母語で内容を確認しながら日本語を学べる環境を提供します。

※文部科学省「令和 7 年度 日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査結果」



「すらら にほんご」多言語対応メニューページ

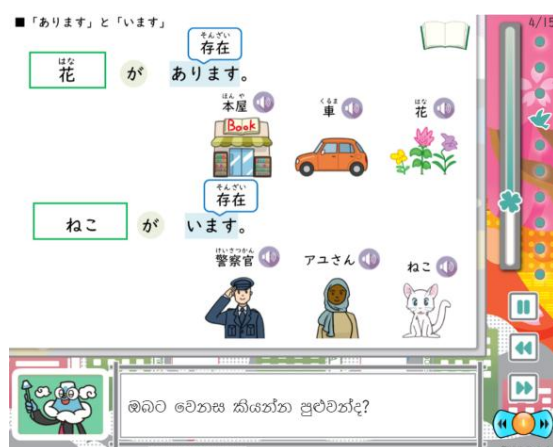
母語で確認しながら、自分のペースで学べる日本語学習教材

「すらら にほんご」は、日本語能力試験（JLPT）N5・N4 レベルに対応した日本語学習 ICT 教材です。母語で意味や内容を確認しながら学習を進められるため、日本語学習を始めたばかりの学習者でも、一人で学びやすい構成となっています。日本語の基礎を段階的に身につけるために必要な学習内容をそろえています。

教材には、すららネットの教材ならではのアニメーションによる対話型レクチャーで学んだ内容を、ドリルで繰り返し確認するスモールステップ型の学習設計を採用しています。「あります」と「います」の使い分けなど、日本語学習者がつまづきやすい表現も、場面に応じて理解を深めながら学習できるよう工夫しています。

また、AI が一人ひとりの理解度を分析し、苦手な内容に応じた復習問題を自動で出題します。学習者は自分の理解度に合わせて学習を進めることができ、教員は学習履歴を確認しながら学習状況を把握できます。

さらに、書写機能による文字練習や、アニメーションキャラクター、ゲーミフィケーション要素なども取り入れ、日本語学習を継続しやすい工夫をしています。



国内から海外まで、幅広い日本語教育機関で活用

「すらら にほんご」は、国内では夜間中学校や小中学校、高校、日本語学校、学習塾などで導入されています。また、海外では、インドネシアを中心に、日本での就労を目指す職業訓練校や、送り出し機関などでの日本語学習にも利用されています。

教育現場では、一人ひとりの日本語力や理解度に応じて学習を進められることから、対面指導を補完する教材として評価を得ています。そのことから、日本語教員の確保や、十分な指導体制を整えにくい環境での活用が広がっています。

導入校の教員からは、「日常生活で困らない程度の日本語が話せるようになってからも、授業で先生の説明を理解したり、教科書を読んだり、自分の考えを文章で表現したりする『学習言語』の習得には、さらに時間がかかります。一人ひとりの日本語力には大きな差があるため、『すらら にほんご』は対面授業だけでは補いきれない部分を支える教材として活用しています」といった声が寄せられています。

また、授業だけでなく家庭学習や空き時間にも活用できるため、それぞれの理解度や学習ペースに応じた自律的な学習習慣の定着にも寄与します。

今後の展開

すららネットは、利用者からのフィードバックを踏まえながら翻訳品質の向上を図るとともに、日本語能力試験 N3 レベルへの対応を進めるなど、より多くの外国人学習者が学びやすい学習環境の整備を進めていきます。

今後も、日本語を学ぶ一人ひとりの状況に寄り添いながら、教育現場で活用しやすい教材づくりを進め、日本語学習を支援してまいります。

■日本語学習 ICT 教材「すらら にほんご」

「すらら にほんご」は、日本語を学ぶ外国人を対象とした ICT 教材です。学校で学ぶ児童生徒だけでなく、日本語学校や海外の教育機関、就労を目指す外国人など、幅広い学習者に利用されています。日本語教育分野での取り組みが評価され、第 22 回日本 e-Learning 大賞 日本語教育特別部門賞を受賞しています。

コンテンツは、学習者のレベルに応じて基礎から応用まで段階的に学べる構成となっており、書写機能を使って文字を書く練習も可能です。また、意味を母語で確認しながら学習できるため、初学者でもゼロから一人で学び進めることができます。さらに、アニメーションキャラクターの登場やゲーミフィケーションの要素を取り入れ、学習意欲を高める工夫も多数搭載。世界中どこにいても、正しい発音で日本語を体系的に学べるのが特長です。現在は日本語能力試験の N5、N4 レベルに対応しています。2025 年から、全国の夜間中学を中心に、学習塾などでも導入が拡大しています。

■株式会社すららネット

すららネットは、「教育に変革を、子どもたちに生きる力を。」を企業理念に掲げ、AI を活用したアダプティブな対話式 ICT 教材「すらら」などを開発・提供しています。現在、国内の 3,100 校以上の学校や学習塾で導入され、約 26 万人の児童生徒が利用しています。全国の公立学校や有名私立学校、大手塾での活用が広がる一方、不登校や発達障がい、経済的困難な状況の子

どもたちにも学習機会を届けることで、教育課題の解決に取り組んでいます。2017年に、代表的な EdTech スタートアップ企業として東証マザーズ市場（現東証グロース市場）に上場しました。

- コーポレートサイト <https://surala.co.jp/>
- サービスサイト <https://surala.jp/>